小室家文書の寄贈と展示「小室家文書展―在村医のまなざし―」について

井上　かおり

はじめに

昨年度（平成二六年度）、総数七、六二二点にのぼる文書群「小室家文書」が当館に寄贈された。小室家文書は、比企郡番匠村（現ときがわ町番匠）の小室開弘（あきひろ）家に伝来した文書群である。昭和五五年（一九八〇）に約五百点の文書が当館に仮寄託されたのを端緒として、その後、段階的に追加寄託を受けるとともに、並行して文書の整理・分類作業が進められてきた。そして平成九年（一九九七）三月に『小室家文書目録』[1]（以下『目録』）が刊行されたことによって、広く一般に公開・利用されるようになった。

小室家とその文書群については『目録』解説で詳述されているほか、『新編埼玉県史』[2]（以下『埼玉県史』）、『都幾川村史』[3]などの自治体史、当館の『研究紀要』（以下『紀要』）、その他様々な研究論文や著作物等で紹介・分析されている。しかしながら、文書群の内容があまりにも多岐にわたり、なおかつそれぞれの分野で第一級の資料として高く評価されていることから、かえってその全貌を捉えることが難しかった。

今回、小室氏のご厚意により『目録』に掲載されている寄託資料が全て寄贈されたことに加え、小室邸内に残されていた資料を新たに追加寄贈していただけたことによって、当館に小室家の全文書が揃ったことになる。そこで本稿では追加寄贈分の資料を中心に、これまでの寄託・寄贈の経緯を改めて振り返るとともに、小室家文書の研究史や文書群全体の概要を俯瞰し、併せて寄贈を記念して今年度六月～十月に当館の展示室で開催された「小室家文書展―在村医のまなざし―」の内容について報告したいと思う。

一　小室家文書について

（一）小室家について

小室家は越前国（現福井県）出身で、元は竹内姓を名乗る福井藩士であったが、正徳年間に脱藩して姓を田代に改めた。享保二年（一七一七）、初代の田代元貞は関東に赴き、幕府医官のもとで医術を学んだ後、縁あって享保十年（一七二五）に番匠村に医師として招聘され、名主正木氏の娘を娶って当地に居を定めた。以来、六代目の小室元貞[4]が明治八年（一八七五）に医業を廃業するまで、一五〇年にわたって「在村医」として地域医療に貢献することになる。

三代目の田代元長は姓を「小室」と改め、寛政八年（一七九六）に賀川流産科術の免許皆伝を受けた。これ以後、小室家は蘭方産科医として名を成すようになり、元長が四代目の元貞とともに営んだ医学塾

「如達堂」からは、伊古田純道・岡部均平・安藤文澤をはじめ、日本の近代医療の礎を築いた多くの弟子が育っている。[5]

小室家は医業だけでなく、代々名主や名主後見役を務めるなど、村役人・村の重鎮としての責務も担っていた。[6]更に、名うての知識人・文化人として、江戸をはじめ各地の著名な学者や文人たちと交流をもち、地域文化を牽引する役割も果たしていた。

また、小室家五代目の元長は、考古学・歴史学の愛好家、いわゆる「好古家」としての活躍もよく知られており、胄山の根岸友山らの好古家仲間達と交流し、郷土史研究の分野でも高い業績を収めている。

明治以降の小室家は、六代目の元貞の時代に医業から離れた。その後、元貞は番匠村の村会議員や明覚村長などを務め、七代目の郁彦も父と同様、明覚村の助役や村長を歴任した。なお、八代目で現当主の小室開弘氏は教職として長く学校教育に尽力され、『都幾川村史』の編さんなどにも携わられた。近代以降も小室家は、医療に替わって村政や教育行政などで地域の発展に力を注ぎ続けてきたのである。

（二）寄贈までの経緯

当館では、昭和五二年（一九七七）に埼玉県古文書所在確認調査（寛永期以前の古文書の悉皆調査）を実施し、これ以降も関係自治体や諸機関の協力のもと、新出古文書の発見に努めてきた。また、同年から県民部県史編さん室による『埼玉県史』編さん事業が開始されたが、前述の古文書所在確認調査や県史編さんのための古文書情報の収集過程において、都幾川村（当時）に極めて貴重な資料群があるという情報がもたらされ、昭和五四年（一九七九）九月に小室邸で最初の調査が行われた。そしてこの調査によって、永久五年（一一一七）二月二十日付の「太政官牒（前欠）」（№五六九五）、東寺百合文書の一部である寛元四年（一二四六）十二月二五日付の「六波羅御教書」（№五六九六）など、史料的価値の高い古代・中世文書の存在が明らかになった。[7]

翌昭和五五年、中世文書等を含めた文書約五百点が当館に寄託されることになったが、その際、小室邸内の土蔵に稀覯本を含む多数の和書・漢籍・医学書等が確認され、調査の結果、四年後の昭和五九年（一九八四）、典籍類を中心に約二千点が追加寄託される運びとなった。

その後仮整理が行われ、平成三年（一九九一）、小室家文書五、七二四点についての仮目録がまとめられた。これ以後、小室家文書に含まれる様々な重要資料が各方面の研究者から注目されるようになるが、文書の一般公開には至っていなかった。最初にまとまった形で「小室家」とその文書が紹介されたのは『埼玉県史』である。『資料編12 近世3 文化』[8]では、「埼玉県地域生れの所謂在地の学者・文人」の項で「小室元長家」が紹介され、医業のほか、学者・文人としての活動や交流も盛んであったとして、文書群のうち伊古田純道、河津省庵、久米逸淵らの書簡が掲載されている。また、『通史編4 近世2』[9]では、第六章第四節「四 埼玉の医学」の項で「小室元長」（三代）が紹介されたほか、医学書を中心とした小室家の膨大な蔵書にも言及している。

長く懸案となっていた文書の整理が漸く完了して、平成九年に前述の『目録』が刊行された。これにより、文書の総点数は枝番号も含めて七、三三一点に増加し、改めて寄託契約が締結された。文書群の構成は文書や典籍類を中心に、書画・錦絵・拓本・刷物など多種多様なもので、書簡や明治以降の近代資料の中にも注目に値するものが多く含まれていることなどが明らかになった。ここにおいて研究は一層深

化し、対象とされる分野も更に広がりをみせることになる。

平成二四年（二〇一二）、小室開弘氏より、当館に寄託中の資料全てと、これまで小室邸内で保管されていた文書類の全てを寄贈していただけるとのお話があった。これ以降、寄託資料を受け入れる準備を行うとともに、仮受領した約三百点の追加資料をこれに併せて、改めて分類・再整理を行った。そして平成二七年三月、資料評価会議を経て、総数七、六二二点の小室家文書が当館の貴重な財産となった。

（三）小室家文書の研究史

小室家文書の研究で、まず挙げられるのが「在村医」・「蘭方医」・「産科医」としての小室家を扱ったものである。[10] これは主に蘭方産科医としての小室家を確立した三代小室元長・四代元貞・五代元長に関するもので、小室家文書研究の代表例といえるだろう。特に、小室家の三代（三代元長～五代元長）の当主たちによって書き綴られた六十余冊の日記（No.一四一ほか）は、近世後期から明治初期にかけての江戸近郊農村部における医療活動の様相は勿論のこと、同時期の村落や人々の暮らしの諸相を語るものとして非常に資料的価値が高いものである。[11]

また、小室家蔵書に含まれる医学・博物学の典籍類は特に医学史の研究者を中心に高い評価を受けており、『蘭東事始』[12]写本（No.二九二九）や、これと合綴された『遁花秘訣』[13]写本など、全国的に見ても残存数の極めて少ない、稀覯本の範疇に属するものとされている。また、植物学の書である『植学啓原』（No.三九五四）には著者である蘭学者宇田川榕庵の送り状（No.一一二四―一八）が付随しており、小室家との交流の深さが推察される。このほか、『撒羅満氏産論』[14]写本（No.三八〇一～三八一一）は伊古田純道らが帝王切開術を行った際に参考にした書と推定されているなど、小室家の典籍資料には単なる収集本に留まらない、奥行のある資料が数多く含まれている。なお、伊古田純道や安藤文澤らの門人を育てた師としての小室家の研究[15]や、順天堂の祖である佐藤尚中との交流も注目されている。

次に、「好古家」・「郷土史研究家」としての小室家を対象にした一連の研究がある。これは主に五代目の元長とその周辺を中心としたもので、根岸武香や内山作信ら同時代の好古家達との交流や、元長自身の研究者としての活動や実績、著作に関する研究[16]のほか、元長によって収集された古代・中世文書そのものを扱った研究[17]などがある。

更に、俳諧を中心に、文化人としての小室家に関する研究[18]もある。三代元長は春秋庵の川村碩布に師事して俳人としても名を成し、四代元貞、五代元長もそれぞれ俳号をもち俳人として活動していた。なお四代元貞は、碩布の後継である久米逸淵の活動を物心両面から支える存在でもあり、五代元長は、忍藩の儒学者・漢学者の芳川波山に師事するなど、小室家と当代一流の学者達との関係も深いものであった。

村役人としての小室家に関しては、領主である旗本佐久間宇右衛門家族の慶応四年（一八六八）の番匠村疎開一件の関係文書[19]をはじめ、検地帳や村絵図など重要な資料がある。近代では、六代目元貞が明覚村の村長を務めたことなどから、県や役場関係書類がまとまっている。

小室家の人々が同業の医師や蘭学者、俳人や儒学者、好古家仲間等と、それぞれ取り交わした書簡の研究[20]も進んでいる。また、銅板画家で蘭学者の安田雷洲による肉筆画「紙本淡彩足羽先生提安藤文澤雪行図」（No.六〇八九）の分析[21]や、小室家文書にも多く含まれる近代の銅版画などの研究[22]もある。俳画以外の絵画資料などは、小室家文書の中で

はこれまであまり本格的に取り上げられなかった分野であり、このような新しい側面からの研究も今後更に深まっていくことが期待される。

二　小室家の追加寄贈資料について

表一は、昨年度追加寄贈された資料の一覧である。分類・内訳については、表二の小室家文書全体の分類・内訳の中に「追加分」としてまとめた。この分類は、小室家文書全体の構成をつかむため、『目録』の分類[23]をもとに再構成したものである。今回、新たに「医学」「歴史―史料」「小室家関係」という項目を設け、公的文書以外の資料については、近世・近代という年代分類をしていない（『目録』では、明治五年三月までを近世、四月以降を近代としている）。なお、書状については内容が不可分のものも多いため、概ね「小室家関係」に分類した。

近世（名主）文書群・近代（役場）文書群

この内容の文書群は、既に大半が当館に寄託されていたため、追加資料としては九点に留まった。名主文書のうち、元禄十五年（一七〇二）の番匠村年貢割付（No.六五八四）は小室家来村以前のものである。

近代役場文書としては、明治十一年（一八七九）の「番匠村御用留」（No.六四六六）、同年付の「各校沿革誌」（No.六四七四）がある。「沿革誌」は、六代元貞の弟で明覚学校の教員の小室勤が、学制施行以降、当地域に作られた小学校の沿革や現況などをまとめたものである。

日記・記録

小室家文書の中でも特に貴重と考えられている資料が、当主たちの書き継いだ「日記」群であることは既に述べたが、追加寄贈の中にはその一冊（No.六四六四）が含まれている。「忽忘」と題され、「小室足羽」（三代元長の号）と記名のあるこの日記は、弘化二年（一八四五）正月に始まり、断続的に弘化五年（一八四八）正月まで続いている。

元長は産科医としての小室家の「中興の祖」であり、六四歳で子の四代元貞に家督を譲った後も精力的に診療や医学研究を続けていた。日記の書かれた弘化年間、元長は八十歳を超えていたが、日々の暮らしや医療情報などを事細かに記す筆致に衰えは感じられない。[24]

医学

今回の追加寄贈のうち最も重要と思われるのが分類④の「医学」関係資料である。医家である小室家の根幹を成す資料で、大半の資料が文書館に寄託された後も、小室邸内に大切に保管されていたものである。[25]

まず、二代目の田代通仙が領主佐久間宇右衛門から「苗字帯刀」を許されたことを示す文書（No.六六二三―二）がある。ここには、小室家が医業だけでなく学問の面でも村へ貢献してきた功により、苗字帯刀（剣）と諸役伝馬永の免除のほか、領所の祐筆役を命じると書かれている。小室家文書の中には二代通仙に関わる資料が少ないが、既に医師としてだけでなく、村の有力者として領主に認められていたことがわかる。

また、三代目の元長が寛政八年（一七九六）に鶴田斎宮から香川流産科術の免許皆伝を受けた際の「許可書」（No.六六二二）と、免許皆伝とともに授けられた鉄鈎を収めていた木箱「産科守護活鈎神仙納箱」（No.六六三五）とその包紙（No.六六三三・三四）がある。許可書の裏面には「不許他見　当流口伝回生之奇具」として「活鈎（鉄鈎のこと）」及び「蛇頭」（胞衣を切る小刀）の絵と、寸法などの細かな仕様が書かれている。

これに関連するものとして、「如達堂産科王術秘伝巻」（No.六六三二）と題された一冊は、賀川流産科術の極意を、元長が詳細な挿絵とともに

記したものである。難産の際、胎児を母胎から娩出させるための賀川流鉄鈎は、使用法を誤ると産婦を傷つけ、命も奪いかねない。[26]「秘伝巻」には、施術を行う際の手の形と鈎を載せる位置、娩出時の操作など具体的な説明が書かれているが、賀川流は口伝を旨としていたためこれは弟子たちの目にふれることはなく、鉄鈎とともに前述の木箱に収められて封印された。再び開封されたのは明治五年（一八七二）のことである。

元長が文政七年（一八二四）に産科術会得の経緯を綴った「産科の起源」（№六六三一）には、番匠村に居を構えて以来、医業も繁栄していたが、やがて近在に医者も増えてきたため、友人の勧めもあって、専業として「産科」を学ぼうと志したこと、当初京都の賀川玄悦に入門しようとしたが遠方であるため、玄悦の孫弟子にあたる甲斐国の鶴田斎宮のもとで学び、寛政八年十月十日に産科の「秘術」を伝授されたことなどが記されている。そして医道興隆と子孫守護のため、伝授された「活鈎」を守護として毎年この十月十日に祭礼を行うこと、と結ばれている。

更に、小室家の医業とその功績を語る上で欠かせない資料といえるのが「及門姓名録」（№六四二五）と「及門姓名簿」（№六四二四）である。この二巻は同様の筆跡・装丁であり、同時期（嘉永二年・一八四九）に作られたものと思われ、「姓名録」には三代元長の門人十五人が、「姓名簿」には四代元貞の門人十三人の名が記されている。二巻とも冒頭に同文の「及門録例言」が記載されており、そこには医業を行う上での心構えや、堕胎を禁ずることなど医師としての倫理が説かれている。[27]

近代の医学関係文書では、明治五年に五代小室元長らが入間県医学所あてに出した「医道試験猶予願」（№六四七六・七七）がある。明治政府は、近代医療制度確立のために医師開業試験の導入を試みたが、旧来の在村医たちはこれに抵抗し、当時医学所に出仕していた元長を介在して猶予を願い出ていた。板挟みになった小室家の立場が推察される。[28]

そのほか小室家の具体的な医療活動がわかる資料としては、「如達堂主人　小室元長製」と印字された薬包紙「保赤子主治並用法」（№六四六一）もある。これは如達堂で調合された「驚風・疳（ひきつけ）」の乳児・小児用丸薬のもので、包氏には月齢・年齢に応じた服用法まで細かく記されている。小室家では薬種問屋で仕入れた薬剤のほか、庭の畑で育てた薬草で製薬を行っていた。また、文書資料以外では、分娩の際に使用された鉄鈎・鉗子・刀子などの医療器具、製薬に用いた大小様々な薬匙の類（№六六三六～六六五二）もこの度寄贈を受けることができた。

なお、天正六年（一五七八）の松山城主上田長則の朱印状[29]（№六六二一）があるが、これには「番匠勘解由」に対して「小室」と名乗ることを許すと記されている。番匠勘解由と小室家前身の田代家に接点は見当たらないが、田代家が小室姓を名乗ることになった根拠と考えられ、産科医小室家の起点になるものとして「医学」の項に分類した。

歴史―史料

分類⑤の「歴史―史料」の項目には、「都幾山慈光寺実録（写）」（№六四六八）と、これに合綴された「慈光寺実録後編」がある。これは、寛政十二年（一八〇〇）に、比企郡平村（現ときがわ町）の古刹、慈光寺の第九六世信海が記した寺伝「都幾山慈光寺実録」の「後編」という位置づけで、五代元長が好古家仲間でもある平村の峰岸重行とともに文献や寺宝などの調査を行い、明治十四年（一八八一）に編集したものである。[30]

このほか、「鉢形城縄張り図」（№六四五七・六四五九）、「滝山城図」（№六四六〇）、彩色の施された「下仁田戦争戦場縮図」（№六四六二）

などがあり、元長によって収集されたものと思われる。

小室家関係

分類⑥の「小室家関係」には、縁組や年賀など小室家の家政に関わるもののほか、安藤文澤から四代元貞にあてた、安政江戸地震の被害状況などを記した書状（№六六二九）など、書状類が大半を占めるが、小室家初代の元貞の由緒書（№六六〇一）や辞世の詩句（№六五九二）、蔵書目録（№六四七九）などもある。なお、№六四六五の「親睦帳」は、主に五代元長が取り交わした書状の写しを中心に冊子にしたもので、内容の大半は根岸武香らとの好古研究や、『新編武蔵風土記稿』の出版に関するもの、研究論考などであるため、今回は分類⑤「歴史―史料」とした。

書画・拓本

資料のうち、約二〇〇点と最も数が多いのは、分類⑧「書画・拓本」であり、これは墨書や墨画、彩色画の掛幅、俳諧の短冊が中心である。なかでも、五代元長が師事した芳川波山による「如達堂記」（天保十一年銘・№六四二六）には小室家の医業の功績と如達堂の隆盛を称えた文が記されており、墨書「如達堂」（№六四四五）とともに、波山と小室家の信頼関係が窺える。また、四代元貞が師事した丹波篠山藩の侍医で産科医、足立長雋[31]の墨書「茲有自然在医為之庸人」（№六四一九）や、書家で儒学者の亀田鵬斎による「崔子玉座右銘」（№六三九三）、川村碩布の「四時混題百詠」（№六四〇七）なども目を引く資料である。

墨画では、碩布が嵐雪・芭蕉・其角の肖像と発句を描いた三幅対（№六三八二）や、得意とした「梅図」の六枚組（№六四二八）、「相撲図」（№六四三三）、「亀図」（№六四三四）など碩布作品が多く見られる。

また、№六四五五の「修建畠山重忠公断碑記」拓本は、前述の慈光寺にある板碑「重忠断碑」修復事業の竣工を記念して建てられた記念碑の碑文である。当事業は明治十一年（一八七九）から翌十二年にかけて行われ、五代元長もその中心人物の一人だった。

以上が追加寄贈資料の概要である。

最後に、小室家文書全体を概観してみよう。表二の全体構成からもわかるように、小室家文書の中では分類⑦「典籍」が突出しており、次に書簡類を含む分類⑥の「小室家関係」が続く。今回は詳述しなかったが、⑤歴史―史料には古代・中世文書等も含まれ、分類⑨「錦絵・刷物」には他にあまり例を見ない貴重なものが認められている。

小室家の三千点を超える典籍類や、歴史史料・書画・拓本・刷物・絵図・錦絵等は、小室家の人々が全国に及ぶ幅広い人脈をもとに数世代にわたって収集したものや、これも数世代にわたる多くの多様な文化人達との交流によってもたらされたものが基礎として根底にあり、これに「好古家」である五代目の元長が明確な目的意識のもとに収集したものが加わったことで、より多彩かつ重厚なものとなっている。

そして特筆されるのが、小室家の文書群の保存状態が極めて良いことである。通常、これほどの数量の文書群では、ある程度の割合で損耗の激しい文書があるものだが、小室家文書に関しては多少の経年劣化や手擦れなどは認められるものの、虫損や鼠損、汚染など、絵画においては褪色などもほとんど見られない。これは、資料が長期にわたって適切な保存管理下に置かれ、定期的な資料点検や曝書などが行われていたことを示すもので、小室家歴代の当主たちが、学問や書物、そして先祖への敬愛を常に持ち続けていたことを物語っている。

（表一）小室家文書追加寄贈資料一覧

追加No.	文書No.	表題1	年月日	出所	宛所	形態	備考
1-1	6378-1	［絹本墨画「山水図」］		養川法眼		掛幅装	3幅対、箱付
1-2	6378-2	［絹本墨画「船乗月見布袋図」］		栄川院法印		掛幅装	3幅対、箱付
1-3	6378-3	［絹本墨画「山水図」］		養川法眼		掛幅装	3幅対、箱付
2	6379	［絹本墨画「竹図」賛］		黄檗木庵		掛幅装	箱付
3	6380	［紙本淡彩「出山釈迦図」］		星橋（朽木出羽守綱貞）		掛幅装	箱付
4	6381	［紙本墨書「詠史」］		［安井息軒］		掛幅装	箱付
5-1	6382-1	［紙本墨画「嵐雪図」発句］		六気碩布		掛幅装	3幅対
5-2	6382-2	［紙本墨画「芭蕉図」発句］		六気碩布		掛幅装	3幅対
5-3	6382-3	［紙本墨画「其角図」発句］		六気碩布		掛幅装	3幅対
6	6383	［絹本着色「山水図」］		瑞景		掛幅装	
7	6384	［絹本墨書「昧爽丕顕後世猶怠」］		鑑之斎		掛幅装	
8	6385	［絹本着色「山水図」］	大正14.	文二		掛幅装	
9	6386	［墨書「姥捨山吟」］		春秋庵碩布		掛幅装	
10	6387	［絹本淡彩「富士の山図」］		白扇		掛幅装	
11	6388	［紙本墨画「梅図」］		六気碩布		掛幅装	
12	6389	［絹本着色「布袋唐子遊図」］		狩野伯清		掛幅装	
13	6390	［絹本墨書「湖山十里紫霞濃・・・」］		磐渓		掛幅装	
14	6391	［紙本墨画「水鳥図」］		常信		掛幅装	
15	6392	［紙本着色「松竹梅鶴亀図」］		南溟		掛幅装	
16	6393	［絹本墨書「崔子玉座右銘」］		鵬斎亀田興		掛幅装	
17	6394	［絹本淡彩「春山水図」］		春章		掛幅装	
18	6395	［紙本着色「鳥図」］		文兆		掛幅装	
19	6396	［絹本着色「山水図」］		春章		掛幅装	
20	6397	［紙本着色「芭蕉十哲図」］	弘化4. 9.	田禾		掛幅装	
21	6398	［紙本淡彩「蜘蛛・雷神図」］		文雀		掛幅装	
22	6399	［絹本淡彩「山水図」］		翠雲		掛幅装	
23	6400	［紙本墨画「神農図」］	文化戊寅.3.			掛幅装	
24	6401	［紙本墨画「虎図」］		巣兆		掛幅装	
25	6402	［絹本彩色「尾長図」］		鮮山		掛幅装	
26	6403	［絹本彩色「千羽鶴図」］				掛幅装	
27	6404	［絹本彩色「芭蕉翁図」］		観海		掛幅装	
28	6405	［絹本墨画「梅に鶯図」］		竹谷		掛幅装	
29	6406	［絹本墨画「鐘馗図」］		典信		掛幅装	
30	6407	［紙本墨書「碩布四時混題百詠」］		春秋庵三世碩布		掛幅装	
31	6408	［紙本淡彩「山水図」賛］		五瀬霞龍		掛幅装	
32	6409	［紙本彩色「千羽雀図」］				掛幅装	
33	6410	［紙本墨画「盛夏乃風雨」		文兆		掛幅装	
34	6411	［紙本彩色「山水図」］		崋山外史登		掛幅装	
35	6412	［絹本彩色「桜井乃駅楠公父子」］	戊戌.	録堂斎		掛幅装	
36	6413	［絹本彩色「晩秋乃鴨図」］		応畝		掛幅装	
37	6414	［絹本彩色「三保乃松原図」］		尚堂		掛幅装	
38	6415	［紙本彩色「万歳」］		月波		掛幅装	
39	6416	［紙本墨書［胡蝶句」］		碩布		掛幅装	
40	6417	［紙本墨画「竹図」賛］		詩仏賛、雲段潭		掛幅装	
41	6418	［紙本墨書「竹図」］		江山		掛幅装	
42	6419	［絹本墨書「西洋大医依卜加得之語 茲有自然在医為之庸人」］	己卯.	丹波篠山医員 足立世茂 （長雋）		掛幅装	
43	6420	［紙本墨画「梅・鷹図］］	文化14.8	涼袋		掛幅装	
44	6421	［絹本淡彩「山水図」］		大雅		掛幅装	
45	6422	［紙本彩色「花見風俗図」］				巻子装	
46	6423	倭相秘密巻	文政8.12.			巻子装	
47	6424	及門姓名簿	嘉永2. 3.2			巻子装	
48	6425	及門姓名録				巻子装	
49	6426	如達堂記	天保11.	忍城講官波山		まくり	

50-1	6427-1	［紙本墨画「山水図」］		桃陰逸人		まくり	4枚組
50-2	6427-2	［紙本墨画「山水図」］		桃陰逸人		まくり	4枚組
50-3	6427-3	［紙本墨画「山水図」］		桃陰逸人		まくり	4枚組
50-4	6427-4	［紙本墨画「山水図」］		桃陰逸人		まくり	4枚組
51-1	6428-1	［紙本墨画「梅図」］		八十三老碩布		まくり	6枚組
51-2	6428-2	［紙本墨画「梅図」］				まくり	6枚組
51-3	6428-3	［紙本墨画「梅図」］				まくり	6枚組
51-4	6428-4	［紙本墨画「梅図」］				まくり	6枚組
51-4	6428-5	［紙本墨画「梅図」］				まくり	6枚組
51-6	6428-6	［紙本墨画「梅図」］				まくり	6枚組
52	6429	［絹本墨書「天意必降仁者寿・・・」］		梧堂		まくり	
53	6430	［絹本墨書「結庵在人境而無車馬・・・」］	丁巳.6	種樹		まくり	
54	6431	［絹本墨書「君子之行静・・・」］		米庵三亥		まくり	
55	6432	［紙本墨書「美其輿服盛其・・・」］	文政8.10.	秩干		まくり	
56	6433	［紙本淡彩「相撲図」発句］		八十一翁碩布		まくり	
57	6434	［紙本墨画「亀図」発句］		七十八翁碩布		まくり	
58	6435	［紙本墨画「芭蕉・其角・嵐雪図」発句］	文政壬午.	春秋庵碩布		まくり	
59	6436	［紙本墨書「発句」］		春秋庵主碩布　七十七		まくり	
60	6437	［絹本墨画「福禄寿・鹿図」］		池東令		まくり	
61	6438	［紙本墨書「発句」］		為一		まくり	
62	6439	［紙本墨書「稲妻十詠」］		春秋庵白雄		まくり	
63	6440	［紙本墨書「謂実勢自心」］		法如		まくり	
64	6441	［紙本墨書「発句」］		物庵		まくり	
65	6442	［紙本墨画「草花図」］		雨舫		まくり	
66	6443	［紙本墨書「神号」］				まくり	
67	6444	［過去帳］				折本	
68	6445	［紙本墨書「如達堂」］		波山		まくり	
69	6446	［紙本墨画「七十四歳之翁図」］	天保7	鹿野　竹雅		まくり	
70	6447	［紙本墨書「行や禅坐や・・・」］		堂布納		まくり	
71	6448	［紙本墨書「恃才者人不之・・・」］	弘化乙巳.	波山芳川		まくり	
72	6449	［絹本墨画「亀図」］		文晁		まくり	
73	6450	［紙本墨書「発句」］		春秋庵碩布		まくり	
74	6451	忠臣蔵（初段目～十二段目）		国周		巻紙	
75	6452	［板絵墨画「花・茸図」］		碩布		板	
76	6453	［板絵墨画「梅図」］		碩布		板	
77-1	6454-1	［紙本墨画「鐘馗図」］		十二歳町田五一		まくり	
77-2	6454-2	［紙本墨画「鐘馗図」］		十二歳町田五一		まくり	
78	6455	［拓本「修建畠山重忠公断碑記」］	明治12.10.			まくり	
79	6456	［紙本彩色「鶏図」］				まくり	
80	6457	［鉢形城縄張り図］				一紙	
81	6458	［妙覚郷光明寺天正十八年越前守禁制写］				一紙	
82	6459	［鉢形城縄張り図］				一紙	
83	6460	滝山城図				一紙	
84	6461	保赤子主治並用法（薬包紙）		武州比企番匠村 如達堂主人小室元長製		一紙	
85	6462	［下仁田戦争戦場縮図］（彩色）	元治元.11.16			鋪	
86	6463	［和蘭内象銅版図］	文化			竪帳	
87	6464	忽忘（日誌）	弘化			竪帳	
88	6465	親睦帖（書状等写）	明治11			竪帳	
89	6466	御用留　第三号	明治11.	番匠村役場		竪帳	
90	6467	御薬種之通	明治3.10.	堺屋半兵衛	小室	横半	
91	6468	武州比企郡坂東第九番　都幾山慈光寺実録				竪帳	
92	6469	［小室家蔵勾玉ニ付書状写］	明治12.			竪帳	
93	6470	［長谷川氏家系ニ付書状綴］	明治9.			竪帳	
94	6471	［医療関係届等綴］	明治			竪帳	

95	6472	埼玉県地誌問答	明治17.9.4.	明覚学校		竪帳	
96	6473	再相続願	明治18.10.4.	正木厚治後見人 小室元貞外	埼玉県令吉田清英	竪帳	
97	6474	各校沿革誌合冊	明治11.3.	教員小室勤		竪帳	
98	6475	[新井白石遺著跋文]	明治12.11.30	番匠村休業医　小室元長		竪帳	
99	6476	上(医道試験猶予願)	明治5.7.	第五大区小八区比企郡番匠村出仕小室元長外1名	入間県医学所	竪帳	
100	6477	上(医道試験猶予願)	明治5.7.	第五大区小八区比企郡番匠村出仕小室元長外2名	入間県医学所	竪帳	
101	6478	[老拙頑症等ニ付書状他綴]	[明治]10.7.15	小室元長	山形脩人	竪帳	
102	6479	[蔵書目録]				横長	
103	6480	田方御年貢勘定帳写	文化6.12.			横長	
104	6481	短冊(一粒か万はいなれや米の春)		足羽		一紙	
105	6482	短冊(一粒か万はいなれや米の春)		足羽		一紙	
106	6483	短冊(一粒か万はいなれや米の春)		足羽		一紙	
107	6484	短冊(石に浮く)		足羽		一紙	
108	6485	短冊(子にもまた)		足羽		一紙	
109	6486	短冊(元日や)		足羽		一紙	
110	6487	短冊(元日や)		足羽		一紙	
111	6488	短冊(ふしに雪)		足羽		一紙	
112	6489	短冊(白妙の)		少哉		一紙	
113	6490	短冊(春の宿)		少哉		一紙	
114	6491	短冊(着るものゝ)		少哉		一紙	
115	6492	短冊(野の広さ)		少哉		一紙	
116	6493	短冊(あたらしき)		少哉		一紙	
117	6494	短冊(こからしや)		昴式		一紙	
118	6495	短冊(夕雉子や)		逸居		一紙	
119	6496	短冊(花の木に)		音好		一紙	
120	6497	短冊(石楠花や)		鳥外		一紙	
121	6498	短冊(忘てや)		卓池		一紙	
122	6499	短冊(春ならば)		此青		一紙	
123	6500	短冊(春風や)		瞰之		一紙	
124	6501	短冊(なかい日を)		一郎		一紙	
125	6502	短冊(すのむしの)		如面		一紙	
126	6503	短冊(早晩の)		此青		一紙	
127	6504	短冊(乳のミ児の)		此青		一紙	
128	6505	短冊(貰手に)		此青		一紙	
129	6506	短冊(人はまれ)		此青		一紙	
130	6507	短冊(提てゆく)		卓郎		一紙	
131	6508	短冊(冬の日や)		此青		一紙	
132	6509	短冊(隣へも)		たるめ		一紙	
133	6510	短冊(あら海や)		晰左		一紙	
134	6511	短冊(帷子之)		田禾		一紙	
135	6512	短冊(見るもので)		林斎		一紙	
136	6513	短冊(黄鳥や)		浪花凡二		一紙	
137	6514	短冊(新艘の)		若春		一紙	
138	6515	短冊(やかて逢ふ)		三女		一紙	
139	6516	短冊(明きらぬ)		少哉		一紙	
140	6517	短冊(松葉ニ)		雀百		一紙	
141	6518	短冊(鶴撰む)		任只		一紙	
142	6519	短冊(手軽うて)		梁江		一紙	
143	6520	短冊(茶烟草の)		鳳郎		一紙	
144	6521	短冊(淋しさに)		青布		一紙	
145	6522	短冊(窓先に)		淡叟		一紙	
146	6523	短冊(蚊屋にすて)		鳳棲		一紙	
147	6524	短冊(武士の)		卓池		一紙	
148	6525	短冊(なのりそや)		野々山		一紙	
149	6526	短冊(けふの月)		田禾		一紙	

150	6527	短冊(道の辺や)		しらお		一紙	
151-1	6528-1	短冊(待ことの)		古武良		一紙	
151-2	6528-2	短冊(小夜鮎)		完来		一紙	
152	6529	短冊(さむしろの)		蒼虬		一紙	
153	6530	短冊(くるすろの)		松什		一紙	
154	6531	短冊(午刻頃を)		松什		一紙	
155	6532	短冊(庭はくや)		松什		一紙	
156-1	6533-1	短冊(何とやら)		鳥酔		一紙	
156-2	6533-2	短冊(年へてハ)		東溟		一紙	
157	6534	短冊(冬の日かけ)		葛三		一紙	
158	6535	短冊(せきれいや)		碩布		一紙	
159	6536	短冊(ふいてある)		梅室		一紙	
160	6537	短冊(追悼　見る当の)		西馬		一紙	
161	6538	短冊(炭尽て)		寄三		一紙	
162	6539	短冊(万歳や)		寄三		一紙	
163	6540	短冊(川中島懐古　朝気ふり)		寄三		一紙	
164	6541	短冊(為一居士墓前　たなこゝろ)		梅笠		一紙	
165	6542	短冊(手向　口とちて)		梅笠		一紙	
166	6543	短冊(浮島を)		梅笠		一紙	
167	6544	短冊(むら雨も)		梅笠		一紙	
168	6545	短冊(似よりなき)		梅笠		一紙	
169	6546	短冊(暖め鳥)		逸淵		一紙	
170	6547	短冊(うは玉の)		逸淵		一紙	
171	6548	短冊(くもは行)		逸淵		一紙	
172	6549	短冊(いねもちに)		逸淵		一紙	
173	6550	短冊(待宵も)		逸淵		一紙	
174	6551	短冊(声はかり)		逸淵		一紙	
175	6552	短冊(はらはらと)		士明		一紙	
176	6553	短冊(秋立や)		士明		一紙	
177	6554	短冊(我やとを)		士明		一紙	
178	6555	短冊(啼かぬ日の)		青布		一紙	
179	6556	短冊(朝立も)		田禾		一紙	
180	6557	短冊(ほと々きす)		青布		一紙	
181	6558	短冊(朝日向)		青布		一紙	
182	6559	短冊(墨水逍遥　目のかはる)		松什		一紙	
183	6560	短冊(さとふりを)		曰二		一紙	
184	6561	和歌短冊(浦春曙　見るめさへ)		聖敬		一紙	
185	6562	和歌短冊(仰春孝　寒へても)		竹貫		一紙	
186	6563	和歌短冊(折句冬牡丹　深き夜の)		千影		一紙	
187	6564	和歌短冊(聞郭公忘帰　ほとゝきす)		常橡		一紙	
188	6565	和歌短冊(都鄙迎年　都も鄙も)		正是		一紙	
189	6566	和歌短冊(よる昼も)		之邦		一紙	
190	6567	和歌短冊(ある人の八十の賀に　君かよは)		信成		一紙	
191	6568	和歌短冊(おもふ旨ありて　えミしらか)		乗邦		一紙	
192	6569	和歌短冊(年空春　としの内)		琴山		一紙	
193	6570	和歌短冊(みよし野ニ秋をしくもすたり花さかハ)		琴山		一紙	
194	6571	和歌短冊(虫　萩のはの)		尚寛		一紙	
195	6572	和歌短冊(水辺山吹　木そ川の)		正賢		一紙	
196	6573	和歌短冊(山さとハ)		友満		一紙	
197	6574	和歌短冊(秋草　夜あらしの)		真顔		一紙	
198	6575	和歌短冊(風前花　ちらすとも)		実建		一紙	
199	6576	和歌短冊(あともよく)				一紙	
200	6577	和歌短冊(散もせし)				一紙	
201	6578	和歌短冊(袖も見よ)				一紙	
202	6579	和歌短冊(ねのひして)				一紙	

203	6580	和歌短冊(夏露も)				一紙	
204	6581	旧公家衆短冊拾葉筆者目録				一紙	
205	6582	[過去帳]	文化3..			折本	
206	6583	[絹本彩色鶉図]		巣兆		まくり	
207	6584	武州比企郡番匠村午御年貢割付之事	元禄15.11.	佐久間安芸守内原松文左衛門	番匠村名主長右衛門、惣百姓	続紙	
208	6585	[古春先生詠歌]				切紙	
209	6586	[敷地間取図]				鋪	
210	6587	[神社等位置図]	明治8.6.	南五区八小区比企郡番匠村戸長小室兼平外		綴	
211	6588	[代官陣屋之義ニ付書状]	12.10	越前国坂井郡東長田村長谷川甚右衛門	星野勘七	折紙	
212	6589	[先祖之年忌、田代元貞君絶命句]				切紙	
213	6590	[如達堂上棟書付]	安永2.5.23	棟梁小室金平		切紙	
214	6591	引札[経験不胎散]		番匠郵如達堂主人		一枚	
215	6592	[田代元貞臨終之句]	安永酉.6.8			切紙	
216	6593	[吉田宿井上着吉と申冠者ニ付書状]	6.14	戸塚静海	竹内養順	続紙	
217	6594	[神社入札林書上]	明治10.12.	埼玉県熊谷支庁	番匠村戸長	綴	
218	6595	[神社入札林書上]	明治9.8.18	埼玉県熊谷支庁	番匠村戸長	綴	
219	6596	[書状]		番匠村田代通仙	平郵関谷吉右衛門	切続	
220	6597	[書「米」]		足羽		切紙	
221	6598	寄贈書(佐藤尚中先生之書寄贈ニ付書状控]	昭和39.7.19	番匠村小室郁彦	順天堂大学長有山登	一枚	
222	6599	法華経普門品第二十五				続紙	
223	6600	[今後は息元貞より通信申ニ付書状]	明治17.1.2	元長	長谷川	一紙	
224	6601	[田代元貞由緒書]				一紙	
225	6602	[住持職ハ無之雇之義等ニ付書状]				切紙	
226	6603	[先祖竹内弥太夫ニ付書状]	[天保12.]3.22	加川三助	小室元貞	切続	
227	6604	[上総今津村より引込被申候おゑんとの儀ニ付書状]	.4.5	星野古積	田代求馬	切続	
228	6605	[三包之外ハ足羽残し置ニ付書状]				一紙	
229	6606	[系跡ニ付書状]	明治17.2.15	[福井県坂井郡東長田村]長谷川彦左衛門	[番匠村]小室元長	便箋	
230	6607	[長谷川彦左衛門死去につき書状]	明治12.9.4	石川県坂井郡東永田村故長谷川彦左衛門実弟　足羽郡福井宝永下町中川次郎助	番匠村小室元長	便箋	
231	6608	[年賀ニ付書状]	[明治]16220	[福井県坂井郡東長田村]長谷川彦左衛門	[番匠村]小室元長	続紙	
232	6609	[升内弥右衛門一件ニ付書状]	.3.6	[福井]村上石	[三国出村]加川三助	続紙	
233	6610	[長田村由緒御尋ニ付書状]	.9.28	加川三助		折紙	
234	6611	[三兵衛か家ニ付書状]	天保11.9.28	加川三助		続紙	
235	6612	[尊家先祖故郷吟味ニ付書状]		重谷や七三郎	小室元貞	続紙	
236	6613	[新春之御悦詞ニ付書状]	.正.	[越前三国]重谷や七三郎	「番匠村」小室元貞	折紙	
237	6614	長田村由緒略記				折紙	
238	6615	[長谷川甚右衛門由緒]				切紙	
239	6616	[田代元貞由緒]				一紙	
240	6617	先祖年忌数覚				折紙	
241	6618	[書状断簡]		りせ	田代元貞	切紙	
242	6619	[書状断簡]	..12	田代元貞	覚左衛門、弥兵衛	切紙	
243	6620	[年始之御祝詞ニ付書状]	.正.15	藤間弥平太篤之	田代求馬	切紙	
244	6621	[上田長則朱印状](小室名乗ニ付)	天正6.極.日	上田長則	[小室]	折紙	巻子装
245	6622	許可書(産科施術伝授状)	寛政8.10.10	靄田齋宮	小室元長	切紙	巻子装
246-1	6623-1	[指物頂戴ニ付書状]	.2.28	稲垣保純	安藤文澤	切続	巻子装
246-2	6623-2	[名字帯刀伝馬外差免ニ付書状]	.卯.2.	榊新左衛門	田代通仙	切続	巻子装
247	6624	御所車目貫折紙	文政6.3.7	後藤四郎兵衛		折紙	包紙付

248	6625	[およし殿縁組ニ付書状]	[明治7]..	本村種美	小室元長	一紙	封筒付
249	6626	[およし縁組ニ付書状]	[明治].11.9	渡辺政行	小室元長	切続	包紙付
250	6627	[長刀引取ニ付書状]	.2.23	坂本春尾	小室	切続	
251	6628	[およし殿一件ニ付書状]	.11.29	政行	小室	切紙	
252	6629	[地震被害ニ付書状]	.10.8	安藤文澤	小老先生	切続	
253	6630	[およし縁組ニ付書状]	.10.9		小室元長	切続	封筒付
254	6631	産科の起源	文政7.8.吉	如達堂主 元長小室		続紙	
255	6632	如達堂産科奥術秘伝巻	文政7.8			竪帳	
256	6633	[活鈎神仙守護処包紙]				一紙	
257	6634	[伝授之節相伝之活鈎包紙]	寛政8.10.10			一紙	
258	6635	[産科守護活鈎神仙納箱]				木箱	
259	6636	[産科器具](刀子)				金属	
260	6637	[産科器具](鈎)				金属	
261	6638	[産科器具](鈎)				金属	
262	6639	[産科器具](鈎)				金属	
263	6640	[産科器具](鈎)				金属	
264	6641	[産科器具](鉗子)				金属	
265	6642	[産科器具](鉗子)				金属	
266	6643	[産科器具](棒鈎)				金属	
267	6644	[産科器具](薬匙)				金属	
268	6645	[産科器具](薬匙)				金属	
269	6646	[産科器具](薬匙)				金属	
270	6647	[産科器具](薬匙)				金属	
271	6648	[産科器具](薬匙)				金属	
272	6649	[産科器具](薬匙)				金属	
273	6650	[産科器具](薬匙)				金属	
274	6651	[産科器具](薬匙)				金属	
275	6652	[産科器具](薬匙)				金属	

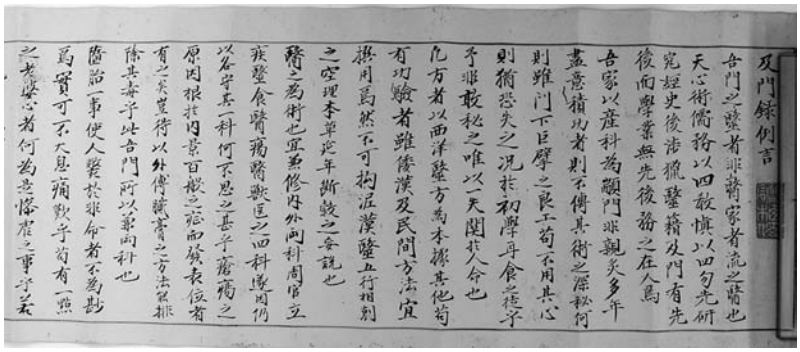
（表二）小室家文書内訳

分類	名称	内訳	員数	主な資料
①	近世(名主)文書群（206点）	目録分	204	検地帳、年貢割付、五人組帳、御用留、質地証文など
		追加分	2	
②	近代(役場)文書群（428点）	目録分	421	太政官日誌、県布達、地租改正関係書類、徴兵関係書類など
		追加分	7	
③	日記・記録（68点）	目録分	67	小室家当主による日記（忽忘・無底漫録・如達堂日記など）
		追加分	1	
④	医学（500点）	目録分	466	近世～近代の医療関係資料。医学書、医事記録、処方箋など
		追加分	34	
⑤	歴史－史料（204点）	目録分	194	五代元長の収集した文書や経典、自ら執筆した研究書など
		追加分	10	
⑥	小室家関係（1,930点）	目録分	1,890	小室家の家政に関するもの。書状・褒状・赤十字関係資料など
		追加分	40	
⑦	典籍（3,111点）	目録分	3,109	医学書以外の典籍類。筆写本が多い。俳諧・文学・歴史など
		追加分	2	
⑧	書画・拓本（660点）	目録分	466	俳諧関係の墨画、板碑拓本など。碩布や元長の作品も多い
		追加分	194	
⑨	錦絵・刷物（428点）	目録分	427	大判錦絵（近世・近代）、名所絵、引札、瓦版、墨摺など
		追加分	1	
⑩	絵図・地図		70	番匠村絵図、武蔵国全図、江戸切絵図、埼玉県管内全図など
⑪	その他		17	＊上記分類に含まれないもの（名刺・原稿用紙版木など）
			7,622	

追加寄贈資料写真

及門姓名簿・姓名録（No. 6424・6425）

「及門姓名簿」門人に伊古田純堂らの名がある

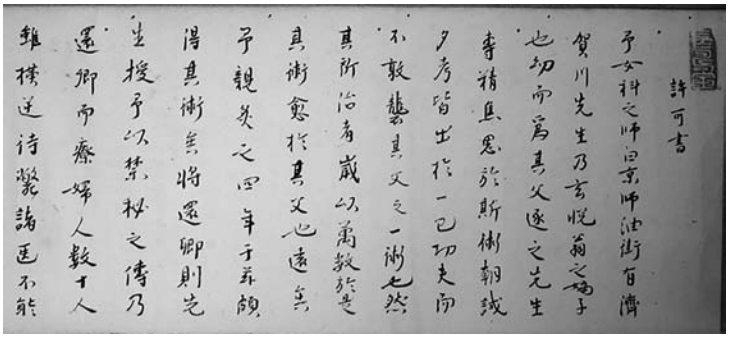


及門姓名簿・姓名録の冒頭に記された例言

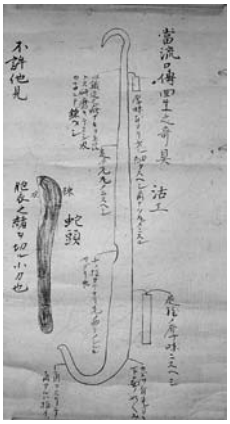
紙本墨書「如達堂」（No. 6445）

上田長則朱印状（小室名乗ニ付）（No. 6621）

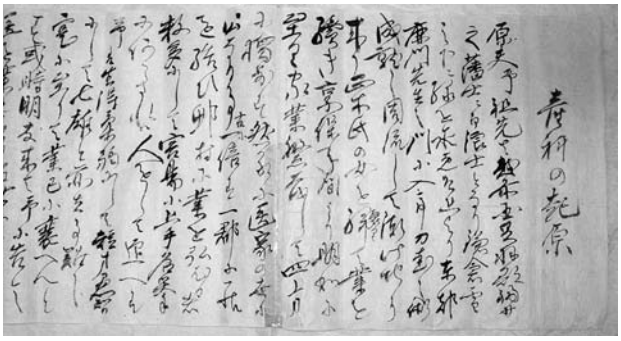
忽忘（日誌）（No. 6464）



許可書（産科施術伝授状）（No. 6622）

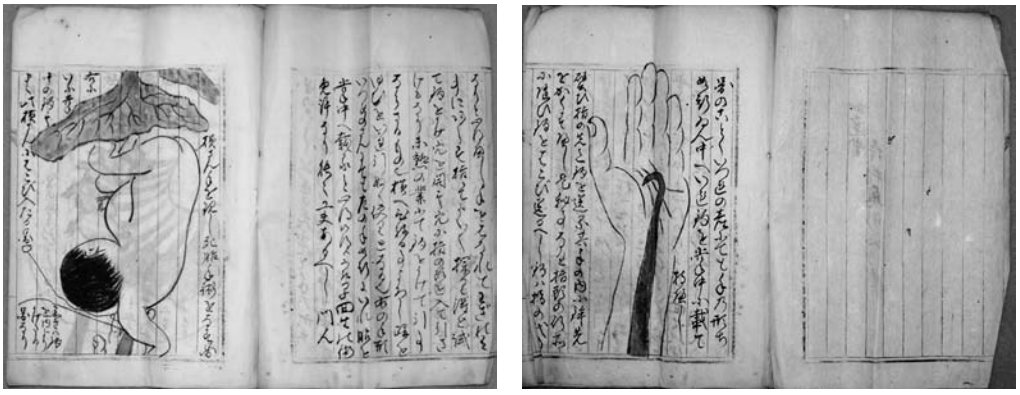


「許可書」裏面の鉄鈎の図



産科の起源（No. 6631）

「秘伝巻」と鉄鈎を納めていた箱（No. 6635）



如達堂産科奥術秘伝巻（No. 6632）

産科器具（刀子・鈎・鉗子・薬匙）

三　「小室家文書展―在村医のまなざし―」について

コーナー展示「小室家文書展―在村医のまなざし―」は、小室家文書の寄贈を記念して、平成二七年六月九日から十月十一日まで開催された。小室家の資料、特に医療（産科）関係資料については埼玉県立博物館（当時）の特別展「子育ての原風景―カミの子からムラの子へ―」（一九九四）や毛呂山町歴史民俗資料館の特別展「蘭学事始―蘭医安藤文澤と太郎・その周辺」（一九九五）などで展示紹介されている。

また、俳諧関係資料については平成二二年（二〇〇九）に当館で「江戸近郊の俳諧―春秋庵を中心に―」として句集や墨画の展示を行っている。このほか、資料の多様さや保存状態の良さから、常設展示において五人組帳などの村方文書、刷物、錦絵などは頻繁に用いられてきたが、「小室家」としてのまとまった形での展示は今回が初めてである。

展示は二部構成とし、「第一部　在村医のまなざし」では医師としての小室家を、「第二部　村を導く」では村役人ほか、小室家のもつ様々な表情を紹介した。表三が展示資料の一覧、図一が展示の配置である。

第一部では、「プロローグ―小室家の人々―」で初代から六代目までの小室家の医師たちを紹介し、三代目元長の自画像などを展示した。次に「Ⅰ命へのまなざし―産科医として―」では、産科術を会得した小室家とその活躍を、本稿でも紹介した産科器具や「秘伝巻」などで説明した。続いて「Ⅱ医学へのまなざし―究め・広め・育む―」では如達堂を開いて多くの弟子を育て、近代医療への道筋を作った小室家を「及門姓名録」や「蘭東事始」などの典籍類、書状などで紹介した。最後に「エピローグ―近代の小室家―」では、医業から離れた後も村の近代化のために尽くした小室家の姿を紹介し、第一部の結びとした。

第二部では、「Ⅰ村役人として」で村政を担い、激動の幕末維新期を乗り越えたことを、「Ⅱ文化人として」では知識人・文化人として活躍し、多くの著名な俳人や学者などとの交流があったことを紹介した。そして「Ⅲ好古家として」では現在の考古学・歴史学・史料学にも繋がる五代目元長の活動業績を中心に展示を行った。

本稿で紹介してきたように、小室家文書は、それぞれ異なるテーマでいくつもの特別展が開催できるほどの豊富な内容（種類・数量も含めて）を持っている。今回の展示は「在村医」という部分に若干重点を置いたものの、あくまでも展示の趣旨である「小室家文書」とはどのようなものか、という紹介としての展示であり、会場の容量の限界もあって、在村医の活躍を地域医療・文化や近世医学史の中に位置づける展示までには至らなかった。[32] また、若干詰め込みすぎであり、小室家の様々な側面の紹介も表層的で雑駁になってしまった印象も否めないが、今後、個々の内容を深めた展示を企画してみたいと思う。

終わりに

小室家文書についてはこれまでも多くの先行研究があり、語り尽くされている感があったが、それはまだほんの一端にすぎず、更に奥深い世界が広がっていることを思い知らされた。今回、更に新たな資料が加わったことで、今後一層研究が深化していくことを期待している。

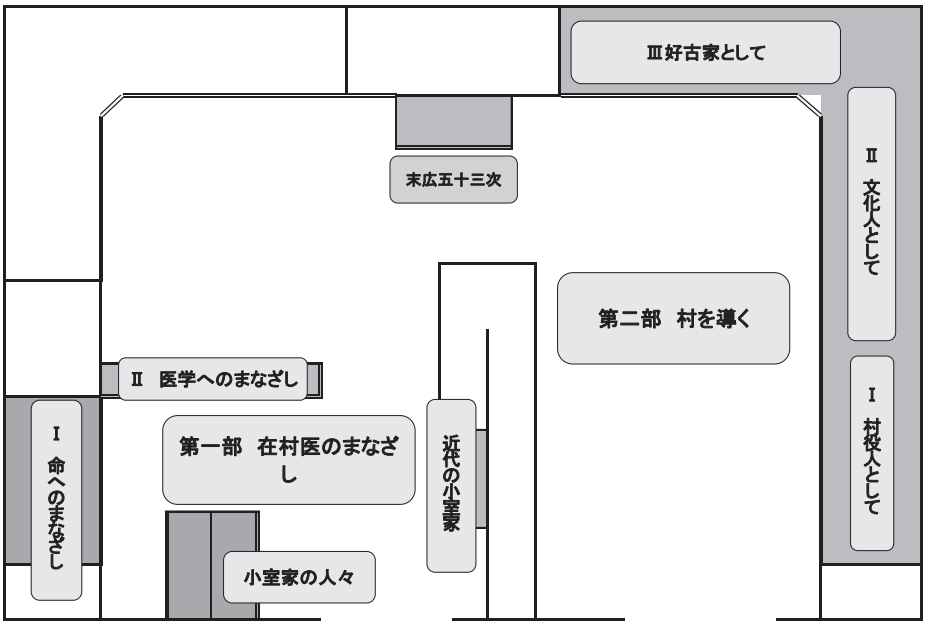
最後になりましたが、資料をご寄贈いただきました小室開弘氏とご家族の皆様に改めて心より感謝申し上げますとともに、本稿をまとめるにあたり、ご教示・ご鞭撻をいただいた芳賀明子氏、追加寄贈資料の整理を行った兼子順氏ほか関係各位に御礼を申し上げます。

（表三）「小室家文書展」 展示資料一覧

No.	文書名	年号	文書番号	点数	期間
第一部　在村医のまなざし					
プロローグ－小室家の人々－					
1	上田長則朱印状	天正6(1578)	6621	1	前期
2	名字帯刀差免ニ付書状	江戸時代中期	6623-2	1	後期
3	紙本墨画小室元長自画像	[嘉永4(1851)]	6255	1	前期
4	紙本淡彩足羽先生提安藤文澤雪行図	[弘化3(1846)]	6089	1	後期
Ⅰ 命へのまなざし－産科医として－					
5	許可書(産科施術伝授状)	寛政8(1796)	6622	1	前・後期
6	[産科守護活鈎神仙納箱・鈎・包紙]	[寛政8(1796)]	6633～35	3	前・後期
7	如達堂産科奥術秘伝巻	[寛政8(1796)]	6632	1	前・後期
8	産科器具(刀子・鈎・鉗子・薬匙)	年代不詳	6636	5	前・後期
9	子玄子産論・産論翼	江戸時代後期	3730	1	後期
10	産科輯要	江戸時代後期	3850	1	前期
11	産科発蒙	寛政11(1799)	3523～24	2	前・後期
12	病家須知　とりあげばゝ心得草	天保3(1832)	3572～73	2	前・後期
13	撒羅満氏産論	弘化2(1845)	3801・03	2	前・後期
14	無底漫録	天保2(1831)	142	1	前期
15	忽忘「足羽日記」	天保10(1839)	145	2	後期
16	紙本墨書　如達堂	[天保12(1841)]	6445	1	前・後期
Ⅱ 医学へのまなざし－究め・広め・育む－					
1.「如達堂」開塾					
17	産科の起源	文政7(1824)	6631	1	前・後期
18	芳蘭雑話	[天保9(1838)]	23	1	前・後期
19	及門姓名簿	嘉永2(1849)	6424	1	前・後期
20	及門姓名録	[嘉永2(1849)]	6425	1	前・後期
◎	写真パネル「紙本淡彩　紙農図」	年代不詳	5989	1	前・後期
2. 近代医療への道					
21	植学啓原	天保5(1834)	3954	1	前・後期
22	重訂解体新書	文政9(1826)	3588～89	2	前・後期
23	蘭東(学)事始	江戸時代後期	2929	1	前・後期
24	薬法記聞	江戸時代後期	3749	1	前・後期
25	牛痘種法	江戸時代後期	3864-2	1	前・後期
26	[若殿江牛痘接術及び牛痘繁昌其成果ニ付書状]	江戸時代後期	930	1	前・後期
◎	写真パネル「錦絵　麻疹養生のおしえ」	江戸時代後期	6369-4	1	前・後期
エピローグ－近代の小室家－					
27	上(医道試験猶予願)	明治5(1872)	6476	1	前・後期
28	休業御届(旧師へ再度入門し医業研究仕度)	明治8(1875)	262-2	1	前・後期
29	領収証(埼玉学生誘掖会原資ノ内出資金)	明治37(1904)	602	1	前・後期
30	[日本赤十字社比企郡委員部明覚村収入委員委嘱状]	明治43(1910)	594	1	前・後期
31	埼玉教育雑誌	明治16(1883)	4274～75	2	前・後期
32	埼玉県衛生雑誌	明治18(1885)	4466～67	2	前・後期
◎	写真パネル「実測埼玉県管内全図」	明治12(1879)	4691	1	前・後期
◎	写真パネル「小室家土蔵」			1	前・後期
第二部　村を導く					
Ⅰ 村役人として					
1. 番匠村と小室家					
1	寛文八戊申年御縄水帳写	享和3(1803)	382	1	前・後期
2	五人組帳(山本大膳版)	天保7(1836)	980	1	前・後期
3	地方落穂集	江戸時代後期	2634～35	2	前・後期
4	乍恐以書付奉願上候事(名主後見役退役願)	文久元(1861)	502	1	前・後期
5	[名主後見役免除申渡状]	文久元(1861)	500	1	前・後期
◎	写真パネル「都幾川・三波渓谷」			1	前・後期
2. 幕末の激動					
6	瓦版(北アメリカ合衆国彼里相州浦賀表渡来船図及浦賀外御固御大名附)	[嘉永6(1853)]	4810	1	前・後期
7	水浪異聞	[元治元(1864)]	2942	1	前・後期

8	[地震被害ニ付書状]	[安政2(1855)]	6629	1	前・後期
9	慶応四年御立退始末	慶応4(1868)	350	1	前・後期
10	御惣容様御届日記	慶応4(1868)	259	1	前・後期
◎	写真パネル「戊申戦争錦絵(ろうそく屋)」	江戸時代後期	6362-1	1	前・後期
Ⅱ 文化人として					
1. 書画・詩歌					
11	逸淵四時混吟一百詠	江戸時代後期	6095	1	前期
12	崔子玉座右銘	文化4(1807)	6393	1	後期
13	発句家集	文政7(1824)	2706	1	前・後期
14	会日稿	[文政9(1826)]	2705-1	1	前・後期
15	自句自書	江戸時代後期	2704	1	前・後期
16	末広五十三次	江戸時代後期	6372	1	前・後期
2. 文学・歴史					
17	北条氏邦書状	[天正11(1583)]	5700	1	前期
18	神功皇后縁起絵巻	江戸時代	5706	1	後期
19	学務知要	天保12(1841)	2337	1	前・後期
20	おあんものがたり・おきくものがたり	弘化2(1845)	2224	1	前・後期
21	太平記	天和元(1681)	2105～07	3	前・後期
22	日本外史	嘉永元(1848)	2258～59	2	前・後期
23	国史略	安政4(1857)	2095～96	2	前・後期
◎	写真パネル「太政官牒(前欠)」	永久5(1117)	5695		前・後期
◎	写真パネル「大般若原波羅蜜陀経(前後欠)」	[貞観13(871)]	5705		前・後期
Ⅲ 好古家として					
24	新編武蔵風土記稿		2895他	3	前・後期
25	[風土記稿出版状況及び価・送料等ニ付書状]	明治17(1884)	1260	2	前・後期
26	窺天録	江戸時代末期～明治時代初期	2943～45	3	前・後期
27	南木廼家随筆	明治時代	2963～65	1	前・後期
28	工村々舎叢書	明治時代	2984～85	2	前・後期
29	武蔵野話	江戸時代後期	2285～86	2	前・後期
30	校正小田原北条家分限帳	明治18(1885)	2531	1	前・後期
31	好古雑誌	明治時代初期	4501他	3	前・後期
◎	写真パネル「野火止用水絵図」	江戸時代後期	5707	1	前・後期

「小室家文書展」展示室平面図

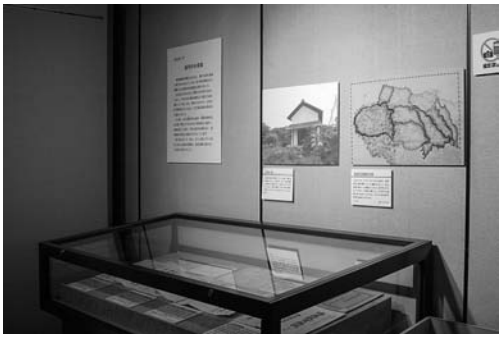


「小室家文書展」展示風景

第一部　在村医のまなざし

Ⅰ命へのまなざしー産科医としてー

Ⅱ医学へのまなざしー究め・広め・育むー



エピローグー近代の小室家ー

第二部　村を導く

Ⅰ村役人として

Ⅱ文化人として

Ⅲ好古家として

註

(1) 『埼玉県立文書館収蔵文書目録第36集　小室家文書目録』（埼玉県立文書館一九九七）。文書の整理・解説は新井浩文氏、長谷川宏氏（Ⅳ典籍）による。

(2) ①『埼玉県史　通史編4　近世2』（埼玉県　一九八九）②『埼玉県史資料編12 近世3 文化』（埼玉県　一九八二）

(3) ①『都幾川村史　通史編』（都幾川村　二〇〇一）②『都幾川村史資料4

(5)(6) 近世編　明覚地区Ⅰ Ⅱ』（都幾川村　一九九八）③『都幾川村史資料5(1)(2) 近・現代編　明治・大正Ⅰ Ⅱ』（都幾川村　一九九四）

(4) 小室家では、四代目の元貞が曾祖父にあたる初代（田代）元貞の名を襲名しており、五代目は祖父（三代）と同じ元長を、六代目も祖父（四代）と同じ元貞を名乗っている。

(5) 秩父出身で四代元貞の門人、伊古田純道（一八〇二～一八八六）は、飯能出身で甥の岡部均平（一八一五～一八九五）とともに、嘉永五年（一八二三）、現在の飯能において日本で初めて帝王切開手術を成功させた。また、同じく門人で毛呂山出身の安藤文澤（一八〇七～一八七二）は、日本で最初期に種痘接種の普及に貢献した人物で、お茶の水順天堂創始者である佐藤尚中の師としても名高い。

(6) 小室家の所在する番匠村は、江戸時代初期から幕領であったが、元禄十年（一六九七）以来、旗本佐久間安芸守の知行地（旗本領）となった。名主は代々正木家が務めることが多かったが、三代元長は名主を、四代元貞・五代元長は名主後見役を務めている。

(7) この調査については、重田正夫氏「比企郡都幾川村小室家文書調査概報」（『文書館報　第七号』一九七九）で報告されている。

(8) 前掲註2②参照

(9) 前掲註2①参照

(10) 細野健太郎氏「近世後期の地域医療と蘭学―在村医小室家の医業を中心に―」（『埼玉地方史　第43号』埼玉県地方史研究会　二〇〇〇）、同「幕末・明治期の地域医療―在村医小室家の活動を通して―」（『近世における地域支配と文化』（北原進編　大河書房　二〇〇三）、など、細野健太郎氏による一連の研究がある。また、重田正夫氏「地域医療に貢献した人々」（『江戸時代人づくり風土記11　埼玉』（農村漁村文化協会　一九九五）、青木歳幸氏『在村蘭学の研究』（思文閣出版　一九九八）、杉立義一氏『お産の歴史―縄文時代から現代まで』（集英社新書　二〇〇二）などでも産科医小室家とその門人たちが取り上げられている。

(11) 「小室家日記」については、石岡康子氏・芳賀明子氏によって解読・分析されており、天保四年（一八三三）～安政六年（一八五九）にかけての七冊が『都幾川村史資料4(6)』（前掲註3②）第九章第二節に翻刻掲載されている。また、芳賀明子氏の研究「武州比企郡番匠村の老医師小室元長の日記―文政九年から嘉永四年まで―」（『紀要　第28号』埼玉県立文書館二〇一五）では、三代元長の日記が読み解かれている。

(12) 『蘭学事始』は、明治二年（一八六九）に福沢諭吉らが出版した際の書名で、杉田玄白が文化十二年（一八一五）に翻訳を完成させた際には「蘭（学）すでに東せり」として『蘭東事始』と名付けられていた。

(13) 『遁花秘訣』はロシア語の牛痘書の訳本（花＝天然痘のこと）で、幕府通詞馬場貞由（佐十郎）（一七八七～一八二二）の著作。牛痘書、更にロシア語訳本としては日本初の書である。残存数が少なく、松本明知氏の研究「馬場貞由「遁花秘訣」写本一六種の書誌学的研究」（『日本医史学雑誌第4号』日本医師学会　二〇〇六）では小室家本も紹介されている。

(14) 『撒羅満氏産論』は、ライデン大学のサロモン教授によって書かれた産科書で、日本では安政元年（一八五四）、勅使河原村（現上里町）出身の蘭学者、矢田部卿雲（一八一九～一九五七）によって翻訳された。

(15) 『毛呂山町史料集第2集　安藤文澤―種痘の創始者―郷土が生んだ蘭方医』（毛呂山町教育委員会　一九九一）、『特別展　蘭学事始―蘭医安藤文澤・太郎とその周辺』図録（毛呂山町歴史民俗資料館　一九九五）など。なお、『埼玉県史　資料編12』（前掲註2②）には、伊古田純道が嘉永五年（一八五二）に行った帝王切開術の顛末を執筆した「子宮截開術実記」の

全文が翻刻掲載されている。

(16) 重田正夫氏「埼玉県における皇国地誌の編輯過程」（『紀要　第18号』（埼玉県立文書館　二〇〇五）、同「幕末・明治初期「好古家」たちのネットワーク」（『埼玉の文化財　第51号』（埼玉県文化財保護協会　二〇一一）、同「明治初期における武蔵の「好古家」根岸友山と武香（下）―上中条村出土の埴輪と黒岩村横穴墓群の発掘を中心に―」（『熊谷市史研究第7号』　熊谷市　二〇一五）、芳賀明子氏「〈史料紹介〉「「好古家」の書簡集『内山手簡』―内山作信と小室元長の交流―」（『紀要　第25号』埼玉県立文書館　二〇一二）、重田正夫氏・白井哲哉氏編『『新編武蔵風土記稿』を読む』（さきたま出版会　二〇一五）など。

(17) 武井尚氏「小室家文書の中世文書―『屋代典憲氏所蔵古文書之写』について―」（『紀要　第4号』埼玉県立文書館　一九九〇）、新井浩文氏「小室家文書所収の中世文書―工村々舎叢書」所収「内山氏古文書」について―」（『紀要　第11号』埼玉県立文書館　一九九八）、諸岡勝氏「文書館収蔵の拓本資料―林家の板碑拓本の紹介―」（『紀要　第21号』埼玉県立文書館　二〇〇八）など。

(18) 『都幾川村史資料4(6)』（前掲註3②）第九章第一節に小室家文書の「会日稿」（№二七〇五）と「俳諧連歌集」（№二七〇九）が翻刻掲載されている。

(19) 『都幾川村史資料4(6)』（前掲註3②）第八章第四節に小室家文書の「慶応四年御立退始末」（№三五〇）と「御立退諸勘定帳」（№一八四）が翻刻掲載されている。

(20) 『埼玉県史　資料編12』（前掲註2②）、土井康弘氏・武内博氏・大沢眞澄氏「小室家文書」の蘭学者書簡について―足立長雋発信の書簡―」（『東京学芸大学紀要第4部門　数学・自然科学』東京学芸大学　一九九二）ほか。

(21) 内田洸氏「安田雷洲の没年及び画業について」（『美術史研究　第五二冊』二〇一四　早稲田大学美術史学会）

(22) 芳賀明子氏「明治期風景銅版画をめぐって～埼玉を描いた『博覧図』（精行社）」（『紀要　第26号』埼玉県立文書館　二〇一三）

(23) 『小室家文書目録』では、Ⅰ古文書近世の部（12項目）・Ⅱ古文書近代の部（13項目）・Ⅲ書状の部・Ⅳ典籍の部・Ⅴ書画の部・Ⅵ錦絵・刷物の部、として分類（Ⅲ～Ⅵはそれぞれ細目あり）されている。

(24) 三代目元長の日記については、前掲註11の芳賀明子氏の研究に詳しい。

(25) 教育者でもある現御当主開弘氏のお話によると、学校などで子供たちにこれらの資料を見せて、小室家の医療の歴史を語ることもあったという。

(26) 賀川流産科術と鉄鉤については、前掲註10の杉立義一氏の著書に詳述されている。

(27) 「及門姓名簿」の元貞の門人に、伊古田純道、岡部均平、安藤文澤の名が見られる。また、安藤文澤の弟である安藤容敬、元長の門人帳に名がある横田長順の息子元司らの名もあり、家族・一族による子弟関係が続いていたことがわかる。なお、「姓名録」・「姓名簿」は『都幾川村史資料4(6)』（前掲註3②）第九章第一節に全文が翻刻掲載されている。

(28) 細野健太郎氏「医療の「近代化」と在村医―入間県を事例に―」（『紀要　第17号』埼玉県立文書館　二〇〇四）参照。

(29) 当文書は国立国会図書館甲山文庫所収「武蔵古文書」に写しがある。

(30) 好古家たちの活動については前掲註16の重田正夫氏、芳賀明子氏の研究に詳しい。なお、元長の収集資料には、慈光寺から散逸したものと推定される「紙本墨書大般若経」（慈光寺蔵・重要文化財）の断簡がある。

(31) 足立長雋（一七七六～一八三七）は江戸の蘭学者・産科医で、丹波篠山藩の侍医。江戸の蘭方産科医の祖であり、『女科集成』『産科礎』などの翻訳を行っている。門人には順天堂を創設した佐藤泰然もいた。

(32) 在村医を扱った展示としては、特別展「村の医者どん」（館山市立博物館　二〇〇八）、特別展「村医者と医者村　多摩の医療奮闘記」（パルテノン多摩歴史ミュージアム　二〇〇八）、企画展「万病に挑む　在村医たちの足跡を追って」（津山洋学資料館　二〇一二）などがある。